

INDEX

1 情報科学部の取り組みを紹介

学部・研究科のFD活動を紹介するシリーズの第6弾。
今回は、情報科学部の取り組みをご紹介します。

2 15分で目からウロコ、の授業改善ツールARCSモデル

10月16日(木)に行われた第13回FDワークショップのテーマ「授業チェックシート(ARCSモデル)による授業改善」について、FD推進センター開発プロジェクト・リーダーの常盤祐司教授よりご紹介いただきます。スーパーグローバル事業に採択された本学でも、世界で多用されているARCSモデルを使用してみることから、授業改善を始めたい方へ。

ご興味のある方は、こちらからARCSモデルのワークシートをダウンロードすることができます。

<http://www.media.hosei.ac.jp/download>

発行：
法政大学
教育開発支援機構
FD推進センター

ホームページ
<http://www.hoseikyoku.jp/fd/>

問い合わせ先
fd-jimu@hosei.ac.jp

学部・研究科の取り組み掲載のご要望、承ります。

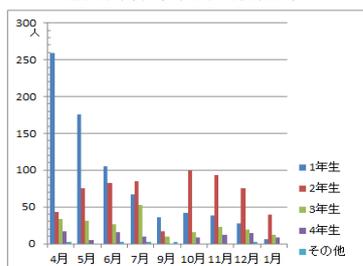
1 情報科学部の取り組みを紹介！

大学生生活をスタートさせた1・2年生は、大学での学び方や友達作りに戸惑うことも多いようですが、そのような学生へのフォロー体制を取り入れている情報科学部から、今回はガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)を活用した取り組みとグループコミュニケーション講義について、ご紹介します。

ガラス箱オフィスアワーセンター(Glass Box Office Hour Center)

オフィスアワーを有効に使うため【教員が研究室から出て相談にのる場所を作る】改革を行い、2010年度よりGBCをオープンしました。運営は、教員だけでなく、学生にもStudent Assistant(SA)として手伝ってもらい、今では学生主体の組織となっています。その他にも、**よろず相談員**(臨床心理士の資格を持つ職員)も常駐し、相談にのっています。講義内容をより深く理解しようとして、課題の取り組み方に迷ったりした時の解決場所として多くの学生が利用しています。

2013年度 学年別利用者数分布



グラフから、4月は、1年生の拠り所となっていることが、よくわかります。2年次秋学期からは、学習内容がより難しくなることから、利用者がまた増加しています。

効果1: 学生と教員との距離が縮まった

学生と教員の壁がなくなり、教員室のドアをたたかなくても、GBCに行けば先輩学生や教員に気軽に質問ができるなど、学生の成長を促す効果が期待できます。

効果2: 運営主体が学生に移行し、活躍の場が増えた

GBCに来る学生と同じ目線で後輩に何をしてあげられるかを考え、企画を立案し、実際に相談にも学生がのります。試験前の勉強会や先生方との懇親会の開催、学生としての活動指針をまとめたガイドブックの作成など、学生が経験値を上げられる場でもあります。



効果3: 講義内容について気軽に質問ができる環境ができた

「同じ苦労」を経験した先輩学生に相談にのってもらえるため、学生に人気です。教員には少し聞きづらくても、同じ学生なら相談しやすいケースもあり、好評です。



GBC: Glass Box Office Hour Center

← GBCの外観(ロビーと一続きで入りやすい場所に設置されています)

効果4: 学生の輪が広がった

共に学ぶことで、横の輪が広がります。先輩に教える・伝えることで、縦の輪が広がります。活動に加わった学生を成長に導きます。

効果5: 学生生活についての悩みも相談できる環境ができた

教員に加えて、よろず相談員(臨床心理士の資格を持つ職員)が常駐し、ちょっとした悩み相談に対応しています。

相談内容	人数
専門科目に関する相談	629
履修相談	83
総合基礎科目に関する相談	64
雑談	32
英語の自主的な勉強(English Corner)に関する相談	15
履歴書の書き方について	3
GBCの応募について	3

←2013年度 主な相談内容と人数

専門科目に関する相談や履修相談数が多く、親身な相談にのってもらえることがデータからも読み取れます。学生が雑談に来たくなる環境というのも、学生の受け入れ体制が整っていることの現れといえるでしょう。

グループコミュニケーション講義

自己理解とグループコミュニケーション能力の向上を目指し、2コースに分かれて実施します。

全新生1日
参加コース(春)

希望者2日間参加
アドバンスコース

会場では、5・6人のグループに分かれ、毎回テーマを決め、テーマに対する解決策をグループで議論し、見出します。議論を行うことで必然的にメンバーに対して発言する機会が増え、その行動を通して自らを知り、チームワークを学びます。

大学生生活のスタートとして重要な時期である初年次に、知人・友人が作りやすくなる/違う考え方があることを知る/自分を知る機会となどの経験ができ、効果が得られているようです。

2 15分で目からウロコ、の授業改善ツール ARCSモデル

2014年10月16日(木)に、第13回FDワークショップ「授業チェックシート(ARCSモデル)による授業改善」を九段校舎5階第二会議室にて開催しました。ARCSモデルは、2014年2月に学部長会議でもFD推進センターよりご紹介いたしました。FDワークショップでは、理事をはじめとする教員参加者に、実際にARCSモデルのシートを使って授業の振り返りを行っていただきました。

今回、本ニューズレターでは講演内容を凝縮して、15分で効果が得られるといわれるARCSモデルについて、講師を務めたFD推進センター開発プロジェクト・リーダーの常盤祐司教授より再度紹介していただきます。

世界標準の評価基準で授業の良い点と改善点をチェックしてみよう

チェックシートを用いて授業を進め方を確認する方法を紹介します。

教員にとって授業チェックシートという、何となく授業の改善点を指摘されるような印象がありませんか。このチェックシートは改善すべき点を気づかせてくれますが、教員が日頃授業で工夫していることの効果にも気づかせてくれます。

例えば、授業を始める際に、その回の授業に関連するニュースあるいはビデオなどを学生に提示することはないでしょうか。こうした工夫の効用はここで紹介するARCS(アークス)モデルで説明することができます。

それでは、前置きはこのくらいにして、ARCSモデルを用いた授業改善について説明していきます。

Attention 注意	おもしろそうだな
Relevance 関連性	やりがいがありそうだな
Confidence 自信	やればできそうだな
Satisfaction 満足感	やってよかったな

ARCSモデルとは何ですか？

学習意欲を「注意(Attention)」「関連性(Relevance)」「自信(Confidence)」「満足感(Satisfaction)」の4つの要因でとらえ、授業における学生の学習意欲を分析し、学習意欲を高めるために提案されたモデルで、4つの要因の頭文字をとってARCSモデルといいます。右図に示すように、授業に対する学生のモチベーションを維持するための方法論といえます。

何がいいの？

その1:世界レベル

フロリダ州立大学のケラー博士によって開発された世界的に認知された手法です。4つの要因は学習意欲に関する詳細な調査をクラスタ分析することによって導かれています。

その2:網羅性

一般的に評価項目は網羅性が重要となりますが、20年にわたる研究成果をベースに開発されているためモレあるいはダブりのない評価が可能となっています。

FD推進センターでは

「ARCS(アークス)」を、
授業チェックあるいは授業
改善のための全学的な共通
視点として広げていきたい
と考えています。



難しいの？

右表に示す12項目についてチェックします。紙面の制限で事例を省略していますが、ワークシートには事例も記載されていますので、それらを見ながら進めることができます。ひとつの授業をチェックするための所要時間はたったの約15分です。

やってみよう

- (1) 担当されるすべての授業をチェックする必要はないので、担当されている授業からひとつ選んでください。これから始まる授業、現在進行中の授業、完了した授業など、どれでも結構です。
- (2) Excel形式のワークシートを以下よりダウンロードします。
<http://www.media.hosei.ac.jp/download>
- (3) 1シート目にワークシート、続くシートには多様な授業に対するサンプルがあります。
- (4) 記載すべき箇所は薄い青色でマークされています。まずワークシート上欄にチェックする授業の概要を記載してください。
- (5) 次に右から2列目にある「担当する授業における現状」にとりかかります。ここには左から3列目にある設問に対して右隣にある対応事例を参考にしながら、チェックする授業の現状を記載します。該当しない場合は空欄でもかまいません。
- (6) 12の設問に対して記載してみたら、現状を振り返ってみます。回答が設問に対してあてはまる場合は望ましい方法で授業が運営されていることとなります。
- (7) 次に設問に対して実施できていない回答があれば、どのような工夫ができるか検討し、最右列の「今期授業における新たな取り組み」に文字通り、新たな取り組みを記載します。
- (8) これで完了です。工夫されている授業を継続するとともに、新たな取り組みを始めてみてください。

学習意欲の概念	概念の分類	設問
Attention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1. 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことしているか？
	A-2. 探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？
	A-3. 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？
Relevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1. 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？
	R-2. 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？
	R-3. 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？
Confidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1. 学習要求	学生に期待することおよび評価すること理解させているか？
	C-2. 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？
	C-3. 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？
Satisfaction 満足感 インセンティブによって達成感を生ずる。	S-1. 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？
	S-2. 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？
	S-3. 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？